



きずな ほだ

【 絆 】と【 絆し 】で、「危険予知能力」を…

副校長 山中 卓

風はまだまだ冷たく、気温の低い日が続きますが、窓から射す光が少しずつ強くなっているように感じます。2月は「光の春」とも呼ばれ、春を予感させてくれます。

学校では、来年度入学児童の「保護者説明会」が実施され、次年度に向けての準備が進むとともに、今年度のまとめの時期に入っています。

さて、最近の子ども達の様子を見ていて、「危険予知能力」がしっかり育っているのかな、と心配になります。この能力は、ある意味、学力や体力と同じぐらい、またはそれよりずっと大切な能力かもしれません。「危険予知能力」とは、読んで字のごとく、危険を予知する能力のことです。もっと簡単に言えば、「こんなことをしたら、けがをするかもしれない。危ないな、やめておこう。」と考えられる能力のことです。

教室内で起きた事故やけががどうして起きたのか、その訳を聞くと、子ども達の多くが、「ふざけていました。」「遊んでいました。」と答えます。その行為によって、その後どうなるのかという「危険予知能力」が身に付いていれば、起きなかったかもしれません。

そんな子ども達のことを考えれば考えるほど、心配になってしまいます。上着のポケットに手を入れて歩き、転んでしまったら…。登下校中、ふざけて押しあって車道に飛び出してしまったら…。SNSに軽い気持ちで悪口を書いてしまったら…。してしまった子どもやされた子ども心に大きな傷を作ることになり、「ごめんなさい。」「今度から気を付けようね。」ではすまされません。場合によっては、いじめにも繋がっていきます。

また、子どもだけで学区外に出て遊んだり、子どもだけで飲食したりすることもしかりです。

危険予知能力が育っていない子ども達には、そこにどんな危険が待っているか分かりません。お金がちょっと欲しいな、と思っている大人にとってみれば、お金を持っていかなくても子ども達だけ、というのは格好の狙い目です。

子ども達にそんな怖い思いをさせたくありません。だからこそ、学校や身近な大人は、「時代が違う、正論過ぎる」と笑う人がいても、「子どもだけでそんなことをしてはだめだ。」と、子ども達に伝え続けなければならないと思います。そうすれば、その言葉は子ども達の心のどこかに残っていて、何かしようとするときに、きっと抑止力になるはずです。

12月の朝会では、こんな話をしました。

【絆】とは、人と人との大切なつながり。みんなもよく知っていると思います。

同じ漢字だが、読み方が違う「絆し」という言葉を知っていますか？

【絆し】とは、人の心や行動の自由を縛るつながり。

例えば、家で「早く寝なさい」や、学校で「廊下は歩きなさい」等、「〇〇しなさい」の声かけのことです。

みんなは、「うるさいなあ」「わかってるよ」と思うかもしれませんが、言われてしまうことです。

意味は違うように感じますが、どちらも「深いつながり」という意味では、同じこと。

だから、「みんなのことを大切に思ってくれているからこそその声かけ」と考えてほしいです。

これからも、先生やお家の人、地域の方は、みんなのことを思って、どんどん声をかけていきます!!